

平成29年度市政懇談会記録調書

対象地区	阿字ヶ浦中学区
日時	平成29年7月2日(日)午後4時00分～午後5時44分
場所	阿字ヶ浦転作推進センター
参加人数	28名

内 容 (要旨, 発言, 集約事項等)

事前質問

1. 小中一貫校整備事業の進捗状況について (教育委員会)
2. 小中一貫校整備に伴うコミュニティの統合について (市民生活部)
3. 小中一貫校整備に伴う土地区画整理事業への影響について (都市整備部)
4. 小・中学校跡地について (教育委員会)

懇談質問

1. 小中一貫校検討部会について (教育委員会)
2. 学校跡地について (教育委員会)
3. 検討部会・統廃合について (要望)
4. 少人数教育の効果について (教育委員会)
5. 海浜鉄道の延伸について (企画部)
6. 東海第二原発の再稼働について (市民生活部)
7. 区画整理地内について (都市整備部)
8. 補助金について (市民生活部)
9. 通学路の植林について (要望)

市長の講評

◇事前質問1（小中一貫校整備事業の進捗状況について）

現在までの事業進捗状況と今後のスケジュールを伺いたい。

■教育次長

この小中一貫統合校につきましては、本年度、平成29年度から予算もついて、いよいよ本格的に事業が始まります。会長から先ほどのご挨拶の中で、何の説明もないということで、大変ご不快な思いをさせてしまったことについては大変反省しております。今年度から予算がついての事業ということで、ご理解をいただきたいと思っております。

先ほどの事業内容でもご説明いたしましたとおり、本年度につきましては、まず学校用地の土地の高さ、低さ、それと正確な面積を図る測量、それとこの土地は、農地であり、民有地ですので、これから買収の必要があります。そのために土地の価格を調査するための不動産鑑定、それと土地の評価、こういったものが本年度の事業内容、それとこの用地の中には住宅と立木がありまして、これの補償料の算定のための調査があります。さらに、校舎や体育館の敷地の中での配置であるとか、建物の中の間取り、それとこの建物の外観等を決める、いわゆる基本設計を本年度行うことになっております。

特にということでご質問がありました、設計計画の策定に対する地元皆さま方の意見交換の機会ということですが、この小中一貫統合校の建設に当たりましては、これを総合的に調査、あるいは検討、協議を行うために、平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区統合校整備等推進委員会という組織を立ち上げています。この組織の中に施設整備等検討部会という部会を設けてあり、新しくできる学校施設について、その設備、施設等の検討を行います。ここには地元の皆さん、あるいは学校の関係者に参加をしていただいて、この検討を進めるということになっております。

今申しました施設整備等検討部会ですが、この部会は先月、6月19日に第1回目が開催されたところです。主要施策の説明で、設計業者が決まりましたというお話を申し上げましたが、この委託設計業者も、この会合にお呼びをして、これを交えて、地元の皆さま方、学校関係者からのご意見、ご要望等をお聞きして、設計の参考にさせていただくということで、第1回目が開かれました。

今後は、この業者が図面等を作成させていただきますので、それをもとに数回にわたりまして、また地元の皆さま方とご意見の交換を進めさせていただきたいと考えております。

また、平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区統合校整備等推進委員会の中には、施設整備等以外にも、学校関係者が学校の運営組織や教育課程等の立案、検討をする学校運営等検討部会、ひたちなか海浜鉄道、ひたちなか警察署などの関

係者の方にも来ていただきまして、通学方法などについての検討を進める通学等検討部会、学校の名前、制服、校章、校歌等を検討する校名等検討部会、それと跡地利用検討部会の5つの部会を設けております。

また、統合後の小中学校の施設跡地ですが、これにつきましても取りまとめをしていく予定です。さらに、今後のスケジュールですが、平成30年度は用地の交渉を行うこととなります。本年度土地の価格等の鑑定をいたしまして、来年度土地を取得する予定です。そして、校舎や体育館等の屋根や壁、柱などの材質や大きさ、構造などの詳細な図面を作成いたします。工事費用の具体的な積算なども行う実施設計を来年度行うこととなります。設計業務に関しましては、この実施設計をもって完了することとなります。

さらに、再来年度ですが、平成31年度からは、校舎等の建設工事が始まります。平成31年、平成32年、2カ年にわたりまして建設工事を進めることとなります。さらに、校名等検討部会では、現在中学校では制服、小学校は自由服ということになっておりますが、統合校で、例えば1年生から制服を導入しようか、あるいは導入しないで自由服がいいとか、今までどおり中学校の年代で学生服、セーラ服だとか、こういった制服などの検討、校歌、校章などの検討をしていく予定になっております。こういった詳細なことまで決定をいたしまして、平成33年4月からの開校を目指して、準備を進めていくことになっております。どうぞ皆さま方の力強い後押しをお願いしたいと思います。

◇事前質問2（小中一貫校整備に伴うコミュニティの統合について）

新たな小中一貫校の開校に伴い、中学校区単位で設けられている現在のコミュニティも統合されるのか。また、仮に統合される場合は、その進め方を教えてほしい。

■市民生活部長

コミュニティ組織は、地域の交流活動を盛んにし、明るく、住みよいまちづくりを進めることを目的として活動している地域の人たちによって構成される組織であり、平磯中学区と阿字ヶ浦中学区のコミュニティ組織は、それぞれに歴史があり、これまで培ってきた経緯もあります。そのため、小中一貫校整備に伴うコミュニティ組織の統合に関しましては、地域の考え方や思い入れ、あるいは熱意、そういったものが最も重要であると認識しておりますので、行政から積極的に進めるものではありません。

しかしながら、今回の学校統合により、学区としての形成エリアが拡大することで、コミュニティ組織での活動を初めとした地域間のつながりやまとまりが、今後ますます重要になってくるものと考えており、今回の学区統合

は地域におけるコミュニティ組織のあり方を考えるよい機会であると思っております。今後の組織のあり方につきましては、それぞれのコミュニティ組織におけるまちづくり市民会議などご協議をいただき、その中で交わされたご意見等を尊重しながら、必要に応じて地域の皆さまとともに協議をさせていただきたいと考えてございます。

◇事前質問3（小中一貫校整備に伴う土地区画整理事業への影響について）

平磯地区への小中一貫校立地に伴い、阿字ヶ浦土地区画整理事業における阿字ヶ浦小学校と中学校敷地の位置付け、及び土地利用への影響を教えてください。

■都市整備部

阿字ヶ浦土地区画整理事業地区内には既成市街地の整備という側面と新市街地に向けての新たな開発という重要な役割を担っております。また、阿字ヶ浦地区の北東側沿岸には海水浴場、北側には年間200万人以上が来訪するひたち海浜公園、そして西側に産業が集積する工業団地などに囲まれ、地理的に恵まれた環境にあると考えています。

さらに、区画整理事業によりまして、和田町常陸海浜公園線につながる中央通り線や、磯崎や那珂湊市街地につながる学校通り線、そういった都市計画道路を整備いたしますので、移動交通の利便性は確実に高まり、さらには生活を豊かにする公園、生活道路、雨水排水などの改善を図ってまいりますので、魅力ある市街地が形成されつつあると考えています。

加えまして、ひたちなか海浜鉄道が地区内を通り、西口ゲートのあたりまで延伸する計画となっておりますので、新駅の設置により、移動手段の確保も整い、お年寄りも含めて交通の利便性が高まるなど、生活の質の向上に期待が持てる地域と考えています。

一方、区画整理事業の現在の保留地の販売状況ですが、購入希望者に対しましては、平成28年度より阿字ヶ浦小学校及び中学校は、磯崎地区における小中一貫校へ統合され、平成33年度の開校を目指して準備が進められていますと説明して販売しております。それでも保留地の処分は、毎年右肩上がりの販売を見せて、堅調な動きです。小中学校がなくなることへの影響は余りないものと感じております。先ほど述べましたように阿字ヶ浦の土地利用につきましては、現在取り組んでいる区画整理事業によりまして、公共交通を含め、交通体系が着実に進むとともに、生活拠点としての基盤整備が整うほかに、阿字ヶ浦周辺地区には工業団地が隣接するということですので、職住近接のまちづくりがかなうこと、海浜公園、海水浴場の観光資源が身近にあり、交流人口が増進し、にぎわいが保てる、そういったことから、地理的

条件が整っているということもありますので、小中一貫校に伴う土地利用への影響については、ないものと考えています。

◇事前質問4（小・中学校跡地について）

施設計画策定時に係る地元との意見交換の機会がいつ頃設けられるのか伺いたい。

■教育次長

平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区統合校整備等推進委員会、ここに跡地利用検討部会を設置いたしました。この部会では、多くの皆さま方、地元の方々、学校関係者、それぞれの皆さま方のご意見やご提案をいただきながら、この地域の今後の発展に寄与できるように、貢献できるように跡地の有効的な利用を考えてまいりたいと思っております。

◇懇談質問1（小中一貫校検討部会について）

教育委員会からご説明のあった、5つの検討部会は、施設整備等検討部会は既に第1回を開催したとのことだが、この5つの部会の中で、地元のメンバーや人間が加わることができる部会はどれなのか伺いたい。また、第1回が開催された施設整備等検討部会に、地元の者が入っていたのか。また、今後入れる予定があるのか。

■教育次長

先ほどご説明をいたしました、もう少し詳しくご説明させていただきたいと思っております。教育委員会の、それぞれ現在あります担当課が所管課といたしまして、学校運営等検討部会、施設整備等検討部会、通学等検討部会、校名等検討部会、跡地利用検討部会、5つの検討部会が設置してございます。この中で地元とのかかわりで一番薄いというのが学校運営等検討部会、これは学校経営、あるいは運営の組織、それと教育課程、カリキュラム等を検討する部会ですので、これは教員の方々が検討を進めるということでもあります。残りの部会ですが、施設整備等検討部会、通学等検討部会、校名等検討部会、跡地利用検討部会については、それぞれ地元の方々のご参加をいただきたいと思います。

特に質問ございました、施設整備等検討部会につきましては、第1回目を6月19日に開いたということで説明させていただきました。この中身につきましては、当然自治会の方々もご出席をいただいております、学校関係者の方々もご出席をいただいております。それぞれご意見でありますとか、アイデアといったものも持ち寄りをいただきまして、委託をする設計業者も同席をさせまして、そこで内容については伝えてあります。その内容を図面にしたものが次の会合で提示されます。それについて、また意見の交換、アイ

デアのやりとりをして、それを数回にわたって、これから検討を進めるという手はずです。

通学等の部会については、これも地元の皆さまに入ってくださいと予定ですが、ご挨拶の中でありましたように、湊線を通学手段で使おうということで検討を進めております。

それと、校名等につきましては、先ほど申しましたように校名、校章、校歌、制服といったものの検討を進めますので、これは当然地元の方々、特に父兄の方々、PTAの方々のご意見を頂戴しなければ進められないものと考えております。

また、事前質問にもありました、跡地の利用検討ですが、この残された土地、建物、施設等を、当然役所だけで、こういうものに使うから、これでやってくれというようなやり方でできるものではありません。当初から皆さま方の意見をいただきながら、地元の発展につながるような施設利用を考えていきたいと考えております。

◇懇談質問 1（小中一貫校検討部会について）

各部会に自治会等が出ていると聞いたが、その情報が地元になかなか伝わりにくいということもあるので、議論が進んだ途中の節目に住民を対象にした説明会をやっていただきたい。

◇懇談質問 2（学校跡地について）

阿字ヶ浦土地区画整理事業の中に残る小学校と中学校の跡地は、新たな保留地として区画整理の中の事業費を確保するために販売されるといったようなこともあり得るのか伺いたい。

■都市整備部長

小中学校の跡地を住宅として保留地を販売するということですが、そういった考え方は持っておりません。少なくとも、これだけの大区画ですので、学校の用地としてあるわけですので、そういった地域に還元できるような公益的な施設の引き合いがあれば、活用していければと思っております。いずれにしても、こういった推進委員会や統合部会で議論されることだと思っておりますので、このような議論も含めて検討していかなければならないと思っております。

◇懇談質問 3（検討部会・統廃合について(要望)）

施設整備等検討部会に、地域をつくる会を入れてもらって進めていけばいいかと思う。

また、統合校に関係したことを要望するが、一番大事なことは、子供の安全であり、通学だけでなく、校内生活やいじめ等の予防対策も含めた安全で

あり、質の高い教員の厳選が要求されてくる。そういうことも含めて、統廃合校の検討を要望したい。

◇懇談質問4（少人数教育の効果について）

小中一貫統合は、具体的にスタートしているが、私自身、この計画について、なぜそうしなければならないのか、これがよくわからない。

子供たちにとっての教育や地域社会にとって、地元で学校がなくなるということがどういうことなのか検討しなくてはならないのではないかと思う。市内の枝川小学校は今全校で28人とかなりの小規模校だが、立派にやっている。人数が少ないので子供たちに先生の目がよく届いて、子供たちも楽しく学校へ行って、勉強にも励んでいる。

先日、茨城新聞にも県の教育委員会の少人数教育拡大という記事が載っていた。ここでも少人数教育の効果について詳しく述べている。こういった点を見ると、少人数学級、少人数教育が、いかに子供たちにとって大事なのかという問題を考える基本だと思う。計画はスタートされているが、詳細、検討をお願いしたいと思う。

■教育長

私は、平成23年からこの立場におります。平成23年4月に教育長を拝命したのですが、東日本大震災は平成23年3月11日でした。この周辺の学校も被災して、とても使えないといったようなことで、移転を余儀なくされて、2年間過ごした学校もありました。

そういう中で、少子化によって学級の規模が小さくなっていく、それを見過ごしておいていいのだろうかという疑問が率直にありまして、平磯、磯崎、阿字ヶ浦地区の皆さまに説明をする前に、自治会の皆さま、そして保護者の皆さま、また学校関係者の皆さまと意見交換を重ね、アンケートもとらせていただきました。

総合的に判断して、現在に至っているわけですが、6年間を要しております。先ほどのお話の中で枝川小学校のお話がありましたが、現在は23人になっております。完全複式ですので、1、2年生が1学級、3、4年生が1学級、そして5、6年生が1学級です。一人一人に目が届いて、そしてその子供にとって必要な指導が十分できているとは思いますが、他方、別な見方からしますと、どうしても子供たち同士の切磋琢磨という場が、これはちょっと厳しいのではないかと、それを周りの大人たちや学校の先生が補って、ようやく成り立っているのではないかと私は思うのです。

それは私自身、実はもう十何年前になりますが、山方町といった小さなところの学校に赴任しました。教頭で赴任したのですが、その当時23人でした。

そして、私が3年そこに行きまして、出るときに18人になり、閉校したのが14人のときでした。その教育の実態を私は見てまいりました。

一方、その山方に行く前は、勝田一中ですので、千何百人という、そういう中で学校生活を送ったわけです。そして、教育は、どこでも同じような大切な教育を行っています。しかし、子供たちが少なくなると、どうしても切磋琢磨の場というのが少なくなりますし、そこを何とか補わなければいけない。また、多過ぎる問題は確かにあるのですが、教育委員会として出した一つの考え方というのは、やはり学校というのは1クラスでは、どうしても逃げ場がなくなるときがある。心の安定が、いいときはいいが、それが崩れたときは極めて危険な状態になるのではないかと考えていますと、最低でも2クラスは編制したいと考えているところです。磯崎小学校3、4年生は複式学級になっております。そのまま進んでいきますと、教育的な判断としては、本当に厳しい状況になってくると私はそう思っているわけです。

ですから、いろいろきめ細かな指導ということもよくわかるのですが、私としては、やはり小中一貫校を立ち上げて、また9年間で系統的、継続的な学びを通して、子供たちの豊かな感性ですとか、また知性というものは育みながら、自立した1人の人間として力強く生きていくための総合的な力を身につけた子供たちを育てたいと考えて、今進めているところです。小規模のほうがいいという考え方の方もたくさんいらっしゃいます。私が今お話し申し上げましたように、そういう考え方で、この6年間やってまいりましたので、ぜひその方向で進ませていただければありがたいと思っております。

また、小中一貫校というのは中1ギャップが、小学校から中学校へ行くときの落差が、ちょっと激し過ぎて、それで不登校とか、いじめとかが多くなると、こう言われております。私は、そのギャップというのは、広くなり過ぎたときは問題だが、ある程度必要なギャップというのは、これは人が生きていくために乗り越えなければならない壁だと思っております。ですから、9年間、それをなくせば、子供たちは立派に育っていくとは考えておりませんので、やはり節々ごとに一つのステップアップの時期を設けるということにつきましては、教育課程の問題でありますので、学校運営等検討部会で、今まさに検討しているところです。大体形が決まりましたら、皆さま方にお示しをしてみたいと考えております。よろしくお願いいたします。

◇懇談質問5（海浜鉄道の延伸について）

ひたちなか海浜鉄道の湊線延伸の需要予測は、過大な評価になっているのではないか。

現在の湊線の経営状態は、毎年市から補助金として出していると思うが、

延伸し、仮に需要予測が狂った場合、経営が困難になってくると、市に対しても財政負担増が求められてくると思う。全国的にも余り例のない計画なので、存続できなくなるというような事態にならないように慎重な検討をお願いしたい。

■企画部長

私どもも、この延伸について、賛成の立場からということで申し上げていますが、少し誤解や説明が足りない部分もあり、反省しております。

まず、延伸の需要予測が甘いものになっているのではないかと、過大ではないかというようなご心配も当然あると思います。今、この延伸計画を昨年、大体65億円ぐらいの事業費がかかるだろうという、ざっくりとした計算もいたしまして、本当にそれで経営が成り立つのかどうなのかというあたりを、もう少し詳しく、過大にならないように調査をしようということで、今年は延伸の基本計画調査というものをやっております。

その中で需要の予測の仕方としては、沿線住民の方に意向を伺ったり、あるいは首都圏を中心に、全国規模でのアンケートをかけて利用の意向を伺ったりということで、需要の予測について詳細な分析をしているところです。

その調査に基づいて、延伸をして利用需要がどれぐらいあるのかということの詳細に検討していきたいということで、アンケートの中に仮想支援金というのがありまして、幾らぐらい応援していただけますかというような聞き方で、ちょっと誤解を招くのではないかと。アンケートの中では、決して実際に1世帯当たり幾らというような話ではありませんと、これは仮想の話だという説明はしているのですが、誤解を与えた部分はあったのかもしれない。

延伸の効果というものは、いわゆる目に見える形の運賃収入のほかに、地域に与える経済効果とか、安心感などお金に換算できない価値というものがあるのだろうということで、これは国土交通省でも、延伸したことによる心理的な効果が、やはりお金に換算して、どれぐらい価値があるものなのかという評価をなささいということになっていまして、ふだんは余り乗らないが、いつでも乗れると、そういった安心感があるとか、あるいは子供や孫の世代に、そういった貴重な地域の資源を残せるといった、そういう満足感、そういったものもやはり延伸の効果の一つだろうということで、これは費用対効果の中に一応織り込んで評価をなささいということになっておりまして、この皮算用が、そのまま収支計画に反映されるというものではありません。

この効果というものは、専ら国が、この延伸は地域にとっていいものなのかどうかという判断をする、補助金を獲得するための手段だと割り切って考えておりまして、この事業を成立させるためには、やはり相当の金額にもなります

ので、会社だけでも、市だけでもやりきれるものではありませんので、国、県の支援をもらってやっていきたいと思っております。費用対効果の中で、この地域への効果というものをちゃんと説明して補助金を獲得していきたいと、そんな分析に使う、そういう設問であります。

それから、補助金が毎年3,000万円ぐらい出ていて、赤字垂れ流しなのではないかといったお話がありました。今、海浜鉄道の経営状況ですが、大体年間運賃収入、その他の収入を合わせまして2億8,000万円ぐらいの収入があります。大体この費用で通常の運行は賄えています。そういうところまで、もう来ています。今この補助金を出しているというのは、安全設備とか、信号機が少し古くなったので交換するとか、あと列車の自動停止装置ATS、こういったものももう少し増やしていこうとか、そういう安全設備の会社の投資を応援しようということで、国と県と市と3分の1ずつ負担をし合って応援しています。そのためのお金が出ているのと、固定資産税はやはり道路と同じインフラだと市は考えておられて、一旦固定資産税は納めていただくのですが、その分をそのままそっくり会社にお返しするという形で補助金を出していますので、その分が3,000万円ぐらい毎年出ていますので、会社の経営上は運賃収入で大体ふだんのことには賄えている。投資をするだけの体力は、まだちょっとないかなというところまで来ているということをお願いしたいと思います。

◇懇談質問6（東海第二原発の再稼働について）

東海第二原発は、現在稼働していないが、大変な老朽化、ミスやトラブルというのは、かなり頻繁に起きているわけで、万一事故があった場合、とても避難はできない。事故が収束しても、ふるさとに戻れる保証はない。

市長は、実行性のない避難計画、市民の安全、生命、財産、これが担保できない限りは、再稼働は認められないとおっしゃっているが、これからもそういう立場でご尽力願いたい。

■市民生活部長

市民の安心安全が確保されない限り再稼働はあり得ないものと、市長は議会の中で答弁されている内容に変わりはありません。

それと、安全協定の見直しにつきましては、これは新聞等の報道でもされておりますが、今現在は茨城県と東海村、2つのみが原発の稼働、あるいはその施設の整備等について物言える権利を持っているのですが、近隣のひたちなか市を含む5市町村、そこに東海村が入った原子力所在地域首長懇談会の中で、同様にひたちなか市も東海村、県と同様に物申す権利が欲しいということの、今安全協定の見直しをしているということですので、これは並行的にまだ続けていくということで、ご報告申し上げます。

◇懇談質問7（区画整理地内について）

数年前から見直しをやっているが、基本的なプランというのは、もうできているなら公表していただきたい。

また、阿字ヶ浦地区には、公園がないので、公園用地がある程度決まっているならば、前倒しでつくっていただきたい。

そして、農協の倉庫がある十文字は、危なかったという話を何件か聞いたので、優先道路がわかるような標識を立てれば安心なのかと思う。

■都市整備部長

区画整理の見直しについて、今鋭意進めているところでございます。これから皆さんへの個別説明等を進めまして、ある程度の仮換地の案というものを出示させていただきます。そういった中で、仮換地の指定を平成30年度あたりに行ければと思っております。それとあわせて、湊鉄道の延伸もありますので、こういったルートが、ある程度概略決まっておりますが、これは確実に決まった状態ではありませんので、その辺を含め、駅舎、広場等も含めて、これからの見直しを反映していきたいと思っております。

それと、公園ですが、恐らく西通り線の脇に公園の計画があります。これは、この間の審議会からも要望がありました。それと、地元のお母さん方からも、この地区に子供を安心して育てる空間がないと、公園を整備してくれというお話を私も受けております。そういった要望を踏まえまして、2,000平米ほどの街区といいますか、区画ができております。区画整理で大体整形されておりますので、物理的にもやれないという条件はありません。これは来年度の予算の問題に絡むのですが、都市整備では、来年度予算化に向けて、取り組んでいきたいと思っております。

それと、どちらが優先の道路なのかというのが、地理的にわからないところがあって、場所を確認させてもらいたいと思います。これは主がどうで、従がどうかというのは、よく確認するということと、警察もかかわってきますので、協議して結論を出させていただきたいと思います。

◇懇談質問 8 (補助金について)

ここの集落センターの壁にAEDがあるが、本体の耐用年数が迫ってきている。当初は50%の補助金をいただいて設置したが、更新のときには、その補助金がいただけるのか。

また、防犯灯の全灯LED化を目指しているところだが、電気料金が比較的安定して安いので、1灯当たりの電気料金が年間2,000円を切ってしまった場合は、補助金2,000円はもらえないのか。

■市民生活部長

基本的には消耗品ですので、当然その補助金の該当にはなるとは思いますが、AEDについては、今はリースというものが結構多くなっている。リースについても補助の中で認めるように今回していますので、AEDをリースに切りかえるというのも一つの手かとは思いますが。

それと、AEDのほうが、年間2つほどしか予算枠はとっていないと思いましたが。そういう意味では、年間の予算枠というのが少ないところで、いろいろな自治会から一斉に要望が出る可能性もありますので、ここについては市民活動課のほうで再度調整をさせていただくということで、お願いします。

それと、防犯灯の部分の電気は、電気代補助金年間2,000円をお出ししております。これは、そのままということでご理解いただいて結構です。

◇懇談質問 9 (通学路の植林について (要望))

将来、学校ができるのが4年先と計画が練られて、運営については、先生方を初め、練りに練った話が統合と思うが、磯崎地区と阿字ヶ浦地区の春一番のほこりの問題があるため、ほこりよけの植林をしたらどうか。今から準備すれば、そんなに大きな予算がかかるわけではなくて、知恵を出せばできると思う。

■市長の講評

それでは、活発なご議論、また当然のいろいろなご意見や疑問、提案をさせていただいて、本当にありがとうございます。

冒頭で申し上げたとおり、今回やはり学校をつくるというのは非常に大きな仕事でありまして、かつて学校をつくるに当たって地元の方がいろいろご苦労され、努力をされ、また知恵も出して、今までの学校ができてきたという、恐らくそういう歴史があるのだらうと思いますが、また新たなそういう歴史をつくるということでもあります。これは先ほど部会の説明をさせていただいたわけではありますが、それぞれ地元の皆さま方にしっかり入っていただいて、役所や、専門家と思われる人も、ちょっとした抜けとか、そういうも

のもありますし、そういう意味でいろいろなご意見やお知恵をいただくという方がいいと思います。

私、それをすることによってまとまらなくなるとか、時間がかかり過ぎるといようなこともないのではないかと感じておりまして、みんなでいい方向にという思いであれば、それなりに方向性が見出せていけるのではないかなと感じました。

子供の通学についても、私は通学路について、若干事務レベルで相談といいますか、どんなものだと、検討経過、途中経過を見させていただきましたが、原則やはり湊線を使っただけ、そして湊線の駅が遠くて、学校に近いところは、当然学校周辺の道路整備をしっかりやるべきでありますし、原地区等については、暫定的に道路をつくるかというご意見もあったわけですが、スクールバスとか、今でもコミュニティバス等を利用していただき、帰りは恐らくお迎えされているのではないかと思います。そういう状況を踏まえて、どういう対応をしたらいいのか、真摯に考えていきたいと思えます。

今、学校も、特に中学校は帰りが遅くなるとか、部活をやっていますから、ばらばらではないかとか、いろいろ問題があるわけですが、先ほども湊線は、そんなに頻繁に走るのかと言われたのですが、これは三セクですから、何とかできると今は思えます。そういうことで、しっかり環境整備も含めてやりたいと思えますし、日立建機へ向けての道路というのは、先ほども出たので、これはかなり大きなテーマなのかと感じますが、それも全体的な優先順位や整備するほかの道路との兼ね合いも考えながら検討させていただく必要があるのかと感じました。

それと、区画整理でいろいろご懸念があるのは当然だと思うのです。これまでもなかなかうまく進まずに、今本当にどんな見直しをするのだということですが、これも冒頭に申し上げたように区画整理はまちづくりだと思います。まちをどんなふうにするのかというのを、当然皆さま方のイメージや考えがあって進めるべきであって、何か型にはまった、都市計画上、こうやるものとか、そういう変なルールみたいなものにこだわるほうがかえっておかしくなるのではないかと思います。公園は3%ないといけないとか、それはケース・バイ・ケースだと思うのです。

ですから、今ある学校の土地をどう活用するかということでもあります。基本的に売却するような資金計画なり、収支計画をつくっているわけではない、そういうつもりはないと答弁をさせていただきましたが、よく詰めていくと、売ったほうがいいのかという意見もあり得ると思われれます。これも含めて検討したほうがいいのかと思っています。

六ッ野という区画整理が市役所のすぐ近くにありますが、あそこは公園を移転しました、六ッ野公園は駐車場も少なく、もともと水はけもよくない。駅に近いここを住宅地にして、ちょっと遠くなりますが、六ッ野スポーツの杜公園を改めて整備をするということも、区画整理の中だからできたのではないかと思うのです。土地を1町歩寄附してくれた方もいらっしやったので、それを基にしてできたという面もありますが、そういった、ある意味では大胆な見直しではないかと言われておりますが、そういうことがむしろ可能といますか、うまく区画整理を利用することが、これから必要だと思えます。公園についても、必要ではないかとお話を聞いているだけでも、そう感じました。

そもそも論みたいなのも、ご質問も先ほどいただいたわけですが、なぜ学校を統合するのかとか、湊線の延伸は大丈夫かという、本当にごく自然なご質問だと思うわけですが、学校の統合については、今、教育長からお話をさせていただいたとおりで、私もそのように理解をしました。ですから、最終的には父兄の皆さま方、子供たちに向き合っている中で、これだよかれということで、私はやるのがいいのだろうと判断をしています。

学校の数を少なくすると、市も財政的に楽なのではないかとか、私は、そんなことは基本的には考えていないのです。そんなことより、もっと問題がいっぱいあるのではないか、見直すべきことが多くありましたので、そういうことではなくて、子供に向き合うということやっていくべきだと思います。

これは私ごとであります、私のいた学校も統合になったのです。すごく寂しいですよ。それも私、ここの地の生まれではないので、ちょっと離れたところではありますが、ほとんど街の真ん中に近いところの学校が統合になりました。恐らく、物すごく抵抗はあったと思います。その街の学校でナンバーをつけると1番の学校が統合になってしまったのです。

私の立場を利用して、どうして統合したのかと聞いたのですよ。そしたら古い街で、商店街も多い街なのですが、ここが複式学級になるのは、やはり子供にとってよくない。自分たちは、それをやってはいけないと思ったというのです。私、あの地域でそんなことを言うのかと思う地域ですよ。でも、そういうこともありました。

ですから、逆に言えば、この自治会やコミュニティ、地域のつながりを引き続き本当に大切にしていこうということが、私はこれから必要なことではないか思えます。学校が一つの核になるのは、否定しませんし、そのとおりの面もあるかと思えますが、だからこそよく気をつけて、気を使ってやるべきではないかなと思います。

それと、湊線の延伸についても、ごもっともなご質問であり、ご懸念だと思えます。ただ、湊線は、なぜ残せたかということではありますが、これはあの時点で、本当に採算は大丈夫かと、70万人ちょっとしか乗ってなかったのです。60万人台に減るだろうと予想していたわけです。ですから、それだけ考えると残せないですよ。会社のことを考えたら、この赤字になって何でやるのだという人が多かったわけです。

ただ、そこで私らが考えたのは、やはりこの地域にとって鉄道というのはどういう意味があるのかということでした。ですから、旧勝田と湊を結ぶ一つの絆でもありますし、この鉄道がなくなれば、ますます私はこの海岸部が何となくエネルギーが低下するのではないかと。私は、そういうまちを実際見てきた経験があるので、余り迷いませんでしたが、理屈でいうと、心配は当然あります。だからこそ、応援団も、地域の皆さんも頑張ったのではないかと思います。ですから、100万人近くなっている。それは極めて珍しい例と言われているかもしれませんが、ただ必要以上にお客さんが離れたと思います。やはり赤字で、そんなに力を入れてない。どうも乗客サービスや接客という面でもどうだったかと、茨城交通に疑問はいろいろあると思います。ですから、本当にここまで離れる必要がないお客さんが離れたのではないかと思います。それを今取り返している部分と、これから将来を考えたときにどういう方に乗ってもらおうかということを考えるべきではないかと、私は思っております。ただ、精神論だけで言っているわけではありませんが、でもこれははっきり言って、精神論もないとできないですね。そのぐらいの問題は当然あるのではないかと思っております。

これは阿字ヶ浦の皆さま方や那珂湊の皆さま方に言うと、ちょっと失礼に聞こえるかもしれませんが、湊線が大事なのではないかと、延伸もやったほうがいいのではないかと、という人は地域以外の人の方が多いかもしいところがあるのですが、やはり当たり前のように走っていて、当たり前のようにある湊線に何かを感じたりや意味づけしたりすることについては、割と外の人の方がはかってくれたりする。それがみんな正しいかどうかはわかりませんが、私はそれを肌で感じるがあります。津田地区に行くと、湊線の延伸については本当にやるのかと聞かれたり、やったらいいのではないかと言われます。津田の人は、ほとんど乗ったことがないですよ。そういうことも実際に起きています。

ただ、ご懸念の点は、実際にやろうとしているほうが心配しているのではないかとされていますが、心配ないわけではないので、当然そういうことは考えていますが、赤字だからどうかという議論になると、別に赤字でいいと私も思っていないし、赤字を垂れ流すことはよくないと思いますが、

赤字だからこそ自治体がやるのだという開き直りがなければ湊線は残りません。そういうところが、あとどれだけ頑張れるかということなのですよね。合理性でいうと、湊線は廃止とまで言わなくても、那珂湊まででいいのではないかと、そんな議論は幾らでも出てきてしまうのです。全国的にそういうことで、全部廃止しないでも、不採算のところとか、余り乗らないところは、その部分は廃線しようとかというのはあります。広島の可部線かな、一旦廃止したのを、また戻すというのをやっているのです。そういうこともありますので、もっと広い観点、視点から見ながら、それを皆さま方にもリアルにお伝えできる、そういう仕事の進め方をしていきたいと思っております。

少し勢いづいた話になりましたが、いずれにしましてもこういった学校が統合で、そして区画整理事業を今見直ししながら、人も増えていくのではないかと、何か変わる予感というものも、皆さま方はされておられるような気がします。海岸部も県道の整備の話も当然あるわけでありまして、これはいい機会ではないかと思えます。ですから、これからまちづくり、この地域をどうするかという、いろいろ検討や議論をしっかりできる土俵がつくられつつあるのではないかと私は思っておりますので、今後とも、いろいろご意見をいただきたいと思えます。決して役所は間違わないわけではないのです。役所も間違いはいっぱいやると思えますし、言うと思うのです。そういう中で、実はこうではないかというようなこともぜひご提案をいただきたいと思えます。

また、皆さま方からいただいたご意見も、そのままではできないが、こうやったらできるのではないですかということをお返しするということに努めていきたいと思えます。貴重な2時間をいただいたわけでありまして、冒頭で申し上げたとおり、今日だけが市政懇談会だとは決して思っておりません。2時間終わってほっとして、あと364日はのほほんとしていられるとは誰も思っておりませんから、そういうことで、ぜひ阿字ヶ浦の皆さん方も日々いろいろお気づきの点や、お考えの点については、またしっかりご要望していただくなり、呼んでいただくなり、また私らのところに来ていただくなりしていただければ本当にありがたいと思えます。次につながる意味のある意見交換、懇談をさせていただいたと思えます。開催を取り仕切っていただいた皆さま方、コミュニティの皆さま方、自治会の皆さま方、参加した皆さま方に改めて感謝を申し上げさせていただいて、まとめにはなりませんが、御礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。